

# OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 大村 海雲

所属 (School) 工学域

学年 (Grade) 1 回生

留学先 (Name of overseas institution)  
メルボルン

留学期間 (study abroad period)  
8/22~9/24

記入日 (Date) 9/24

## 留学レポート Study Abroad Report

去年の夏は何をしていましたか？今年の夏は何をしますか？

2017年の8月5日から9月27日。これは大阪府立大学の2017年度の夏休みだった期間です。この期間中には、車の免許証を取るうと、自動車学校に通っていた人もいでしょう。大会に向けて、汗を流し、自分を鍛えていた人もいでしょう。または、長い休みを利用して、どこか遠いところへ旅をしていた人もいでしょう。皆様がそれぞれに大学の夏休みを満喫していた頃、私はオーストラリアへ短期留学に行っていました。私が訪れたのは、メルボルン。この街には、出会いがあり、発見があり、感動があります。オーストラリアの楽しみ方をいくつか紹介しましょう。

日本で見かけない食べ物を見つければ、食べたくなります。日本でよく見かける食べ物であっても、日本とオーストラリアとで味が異なるのか、確かめてみたくなります。ですから、このレポートでは食の面からメルボルンを紹介します。メルボルンを含め、オーストラリアは「移民の国」と言われるほど多文化な国です。街を歩けば、中華街、イタリアンレストランが多く立ち並ぶストリート、日本食レストランなどなど、実に多くの種類のレストランを見かけます。パブに行けば、オーストラリアらしいステーキを食べられます。マーケットのお祭りに足を運べば、オーストラリア、イタリア、ブラジル、スペイン、アメリカ、ベトナム、タイ、中国、日本、実に多文化の料理に出会えます。ですので、食べ物に飽きることはありませんし、日本食が恋しすぎてやせ細ってしまうこともありません。「そんな料理、日本でもたべられる」と思うなら、コーヒーの飲み比べに挑戦してみたいはいかがでしょうか。メルボルンは、オーストラリアで最もコーヒーで有名なのです。コーヒー目当ての観光客が、オーストラリア国外からくるほどです。朝、出勤途中のビジネスマンで賑わう店で飲むコーヒーはメルボルンの味です。

オーストラリアから帰った後、オーストラリアの土産話をする機会はたくさんあることでしょう。しなければならぬという状況もまた発生することでしょう。オーストラリアに渡航することは、誰にとっても珍しい話ですからね。なのに、せっかくのオーストラリア留学をすべてメルボルンに捧げる。もったいないことです。私は週末を利用して、少しばかりシドニーへ行ってまいりました。パソコンで行きの航空券を取り、帰りは夜行バスを使いました。(メルボルンとシドニーを結ぶ夜行バス会社は二つあります。FIREFLYとGrey Hound Australia。私はFIREFLYを使いました。)ただし、飛行機を使用する際は十分に気を付けてください。何せ、オーストラリアでは飛行機が遅れて当たり前です。私の飛行機なんか70分も遅れてしまいました。ホテルは町の中心部にほど近いものを選んだので、少々値段が張りましたよ。昼は、Googleマップ片手に、街をひたすら歩き回っていました。食べる時以外、常に歩いていたので、靴擦れができてしまいました。それも、旅の一部だと思っています。シドニーへ行って感じたこと、思ったことはたくさんあります。しかし、それはこのレポートに書くほどのことではありません。ただ、シドニーへ行って分かったことが二つあります。一つは、シドニーの旅は楽しかった、シドニーへ行って良かった、と心の底から思えることです。テレビやネットの広告でシドニーを

知ることはできても、そこに住む人々と空気を知ることはできません。もう一つは、二日間では、シドニーを満足いくまで見て回ることができないということです。週末は短すぎました。せめて、三日はほしかったです。

オーストラリアの訪れるべき街はシドニーだけではありません。オーストラリアで知り合った人の中に、こう言う人がいました。「せっかくオーストラリアに来たのだから、ホームカントリーに帰った時、自慢できることがしたい。」と。その人はニュージーランドに行ったそうです。私のクラスのティーチャーはタスマニア島のホバートを勧めていました。海を渡るという選択肢もあります。ホリデイが近づいてくると、クラスみんなは、どこへ行くかという話でもちきりになります。シドニーへ行こうという人もいれば、ゴールドコーストへ行くという人、ケアンズへ行くつもりだという人もいました。一人で行く人もいれば、同じ学校出身の三人で行くという人もいました。エアポート泊をしようという人もいました。しかしどうやら、シドニーはかなり留学生の間で人気の都市らしいです。行こうという人も多かったですし、シドニーの街を歩けば、メルボルンよりも頻りに日本人を見かけました。帰りの夜行バスには、二人組の日本人が乗っていました。

夏休み期間中、何かに挑戦してみたい。いつもと違う生活がしてみたい。英語を知りたい。と思ったなら、ぜひ、このオーストラリア短期個人留学プログラムに参加してください。街の雰囲気、さまざまな文化、自然、…。メルボルンはどれをとっても感動に尽きない街です。

私は夏休みの内、約 744 時間、つまり約 31 日間をオーストラリアで過ごしました。31 日あれば、カップヌードル 14,880 個を調理することができます。この数字を大きいと思うか、小さいと思うかは人それぞれです。しかし、英語を勉強するには、十分な時間です。

最後に、先ほど十分な時間だ、と言いましたが、それは英語の勉強に限った話です。自由時間に関しては、全くもって十分ではありません。自由に行動できるのは、週末の土曜日と日曜日だけです。これでは、遠くへ冒険をすることはできません。4 ヶ月や一年ほど留学する他大学の留学生なら、授業が始まる 1 週間前からオーストラリアに入国したり、10 日間のホリデイを設けるなどしています。しかし、我々にはありません。せっかくの機会ですし、費用も安くはありません。担当の人にお願ひして、何と少しでも、休みを手に入れてください。



コーヒーショップ：

コーヒー豆、豆を挽く機械、コーヒーを入れる機械を売っている店のコーヒーほどおいしいような気がします。私がオススメするコーヒーショップは、“Market Lane Coffee”です。日本の雑誌でも紹介されたことがあるお店です。メルボルンに支店がいくつかあります。是非一度、行ってみてください。